

幕末最強同士の戦い／武雄軍団、秋田を駆ける

Episode 03

明治維新150周年 近代科学の先進地、武雄

慶応四（一八六八）年一月、京都の鳥羽・伏見で始まった、明治新政府軍と旧幕府軍による戊辰戦争。戊辰戦争では、江戸城開城や会津（福島）での戦いなどがクローズアップされがちですが、秋田・山形方面（羽州）では幕末最強同士の戦い、いわゆる羽州戦争が行われようとしていました。

旧幕府軍最強と謳われたのは庄内藩（山形）です。庄内藩は、「鬼玄蕃」の異名で恐れられた二番大隊長酒井玄蕃を中心に羽州方面での戦いにおいて連戦連勝、東北地方で唯一新政府側についてた久保田藩（秋田）を落城寸前まで追い詰めました。一方、新政府軍最強と謳われた佐賀藩。その羽州方面での総指揮官に任命されたのが、武雄領主鍋島茂昌です。茂昌は、久保田藩救援のため、およそ八〇〇名からなる武雄軍団を率いて秋田に赴きました。新政府軍は、武雄が誇る最新の軍備を駆使しながら、庄内藩と一進一退の激闘を繰り返します。庄内藩は九月に降伏、三十年以上続けてきた武雄の西洋砲術導入の成果が遺憾なく発揮されたのがこの羽州戦争だったのです。



▲国重要文化財「久保田領内戦陣要図」

羽州方面での主な戦闘地域が描かれた絵図。鳥海山を中央にして、左が秋田方面、右が山形方面となっている。



▲国重要文化財「勅諭」

戊辰戦争での明治天皇から茂昌への命令書。佐賀藩内の一領主に過ぎない茂昌に対して、天皇から直接命令が下るということは非常に珍しく、大きな期待を寄せられていたことが分かる。

深海宗伝没後400年記念 特別記念品の販売

400年以上の歴史をもつ武雄の焼き物

武雄の焼き物の祖といわれる「深海宗伝 - ふかうみそうでん -」は豊臣秀吉が朝鮮に出兵した折に連れ帰った陶工の中の一人でした。

陶工たちは各地に散り宗伝は武雄市武内町で焼き物をはじめたと言われています。それ以降、武雄の窯元たちは彼らが伝えた技術を礎として伝統を守り技を磨いてきました。

平成30年は宗伝が没して400年目にあたります。

その記念すべき節目の年に、「沢山の人に知って欲しい。どうかして形あるものにした。」そんな窯元たちの思いでつくりました。

深海宗伝没後400年記念の器。

売上金は、記念碑建立の為に使います。

どうぞ皆さまのお力をお貸しください。

【取扱い店舗】

JR武雄温泉駅観光案内所・まちなか案内所「がばい」・武雄温泉物産館等
詳しくはこちら → <http://www.takeo-kk.net/ishin/kanpai.html>

【窯元】

アトリエ夢・つつえ窯・東馬窯・壮明窯・星野窯・辰山窯・綿島康浩陶工房・セツ枝窯・亀翁窯・汲古窯・葉月窯・康雲窯

【お問合せ】

一般財団法人 武雄市観光協会 ☎0954-23-7766

